

8. 麻疹流行対策

はじめに

麻疹ワクチンは、一回接種のみでは10年ほどで抗体価が低下し、麻疹罹患の可能性が出てくる。2007年度の麻疹流行は、麻疹に罹患せずワクチン接種も受けていないか一回接種にとどまって十分な抗体価を持たない年齢層が大学に入学してきた状況で起こったものである。このため2006年度から小学校入学前に2回目の接種を行なうように法改正され、2008年3月からは中学1年生に3期、高校3年生に4期接種が制度化された。

教育実習を予定する2年生の抗体検査

2008年10月に、麻疹ワクチン2回接種が制度化される前に入学した2年生のうち、教育実習を受ける予定がある者に対して麻疹抗体検査を実施した。

10月6日・7日に抗体検査のための採血を実施。361名中288名（79.8%）が受診した。

ELISA法によるIg-G測定 EIA値2.0未満を（-），2.0以上4.0未満を（±），4.0以上を（+）とするが、6.0未満では感染の危険性があるとされている。

288名中EIA値

6.0以上（+）：229名（79.5%）

4.0以上6.0未満（+）：35名（12.2%）

2.0以上4.0未満（±）：17名（5.9%）

2.0未満（-）：7名（2.4%）

およそ20%が十分な抗体を持っていないと判断された。

上記判定に区分した結果表を配布し、EIA値6.0未満の者には実習前に医療機関でのワクチン接種を受けることを勧めた。接種が確認された者は59名中57名であった。

採血と同時に麻疹の罹患及びワクチン接種の状況について確認した。麻疹に罹患したことがあると答えた36名中EIA値6.0未満の者は2名（5.6%）であったが、麻疹に罹患したことが無いと答えた230名中EIA値6.0未満の者は52名（22.6%）に及んだ。

また、ワクチン接種をしたと答えた学生249名中EIA値6.0未満の者は50名（20.1%）であり、ワクチン接種をしていないと答えた学生25名中EIA値6.0未満の者は6名（24.0%）であった。

麻疹の既往に対する回答には特異性があるが、ワクチン接種の有無に対する回答には抗体保有状況との関連がほとんど認められない結果であった。

新入生への対応

2008年3月から高校3年生を対象に行われている麻疹ワクチンの4期接種は、必ずしも実施率が高くないため、未だ数年間は抗体検査とその結果によるワクチン接種が必要であると思われる。具体的な接種計画の基礎資料を得ることを目的に、新入生に対して麻疹への罹患状況やワクチン接種状況を調査した。

入学生に対して入学式前に郵送する書類の中に麻疹等の既往とワクチン接種状況調査票を同封し、入学後に回収した。回収数は1116名（男675名、女441名）、回収率は90.3%であった。

麻疹罹患率は9.9%（男10.5%、女8.8%）。ただし罹患不明が9.4%（男11.0%、女7.0%）あった。

麻疹ワクチンの接種率は91.4%（男91.0%、女92.1%）。ただし接種不明が4.3%（男4.1%、女4.5%）であり、未接種者は4.3%（男4.9%、女3.4%）であった。

ワクチンの種類は麻疹単独が24.1%、MRが25.6%、MMRが20.4%、不明が29.9%であった。

ワクチン接種者で、接種年月日を1つだけ記載している例を1回接種、2つ記入している例を2回接種とすると、1回接種は917例（92.2%）、2回接種は78例（7.8%）であった。

今回調査対象となった新入生は、2006年度からの麻疹ワクチン2回接種の対象外であり、3期、4期の対象にもなっていない。十分な抗体を持っていない学生が多いものと思われ、教育実習前の抗体検査と必要に応じたワクチン接種が必要である。